

県肝疾患診療連携拠点病院
山口大学医学部附属病院 肝疾患センター主催

平成29年度 肝疾患研修会 開催報告

山口大学医学部附属病院
肝疾患センター事務局
松 並 佳 子

山口大学医学部附属病院肝疾患センターでは、山口県肝疾患診療連携拠点病院の事業として、毎年肝疾患診療に携わる方を対象とした、肝疾患研修会を開催しております。

この度、平成29年11月7日（火）にANAクラウンプラザホテル宇部において、平成29年度肝疾患研修会を開催しました。県内医療機関の医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、MSWなど、157名が受講されました。

〔第一部〕「一般講演」

日高 勲 肝疾患センター副センター長を司会として、県（行政）・医師・看護師という、それぞれの立場から、肝疾患診療の現状報告が行われました。

はじめに医師の立場から、日高肝疾患センター副センター長より、C型肝炎の最新治療について、新薬の治療成績や合併症への注意点など分かりやすく説明がありました。

次に行政の立場から、山口県健康増進課 東主任主事より、肝炎治療医療費助成制度について、制度の目的、対象、助成内容、助成対象医療、助成期間、必要書類等の説明がありました。

最後に看護師の立場から、山口県肝疾患コーディネーターである本院の山田看護師より、肝炎ウイルス検査啓発活動について、肝疾患センターの設立当初から現在までのコーディネーター活動に至るまで説明がありました。

第一部では、様々な立場からの情報提供ができました。

〔第二部〕「特別講演」

坂井田 功 肝疾患センター長の司会のもと、国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター肝炎情報センター長 考藤 達哉先生をお迎えし、「HCV 排除時代の肝疾患診療の現状と課題－脂肪肝と肝硬変」と題して、ご講演いただきました。

C型肝炎は新薬が次々と開発され、ほぼ治る病気になっている中、今後どういった事を踏まえて肝疾患診療をしていけば良いかを皮切りに、肝硬変治療の現状、超音波検査に基づく肝臓の繊維化の評価をするフィブロスキャン、B型肝炎の抗ウイルス治療、脂肪肝について、最新の研究・新薬の情報をを用いて説明がありました。最後に、適切な治療を患者に届けるには、それを支える医療機関、地域やコーディネーターが連携していくのが重要であると締めくくられました。

この度は、多くの県内医療機関の皆様研修会を受講していただきました。
肝疾患センターでは、これからも医療従事者や市民の方々に向けた研修会を計画していきますので、皆様の参加をお待ちしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

《研修会風景》

